

区政モニターについて

【アンケート実施状況】

調査内容 「生物多様性」について
調査期間 令和4年6月28日から7月15日
調査対象 区政モニター（100名）
回答数 88名（回収率88%）

区政モニターの内訳（令和4年7月現在）

※（）内は今回アンケートの回答者数

<年齢別の内訳>

10歳代	0名	(0名)
20歳代	10名	(8名)
30歳代	22名	(20名)
40歳代	24名	(23名)
50歳代	25名	(21名)
60歳代	14名	(11名)
70歳代	4名	(4名)
80歳代	1名	(1名)
合計	100名	(88名)

<在住・在勤・在学の内訳>

在住	83名	(73名)
在勤	16名	(14名)
在学	1名	(1名)
合計	100名	(88名)

<設問及び目次>

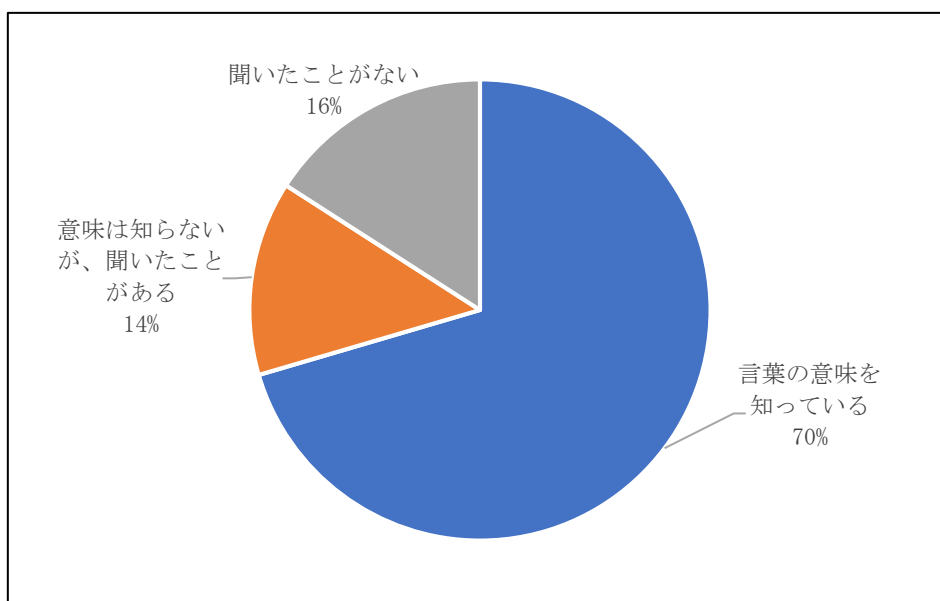
※下記目次では、実際の設問を簡略表記としています。

Q 1	生物多様性という言葉をご存じですか。	3
Q 2	生物多様性に興味がありますか。	4
Q 3	身近な自然についてどのように感じますか。	5
Q 4	「ちよだ生物多様性推進プラン」のことをご存じですか。	6
Q 5	「千代田区生きものさがし」をご存じですか。また参加したことがありますか。	7
Q 5-1	どこで「千代田区生きものさがし」の取組みを知りましたか。	8
Q 5-2	参加したことがない・参加しない理由は何ですか。	9
Q 6	生きものの生育・生息情報や各団体の取組活動等の情報が、十分に発信・共有されていると思いますか。	10
Q 7	生物多様性に関する情報（生きもの、環境イベント、取組み・活動など）は主に何で知りますか。	11
Q 8	生物多様性に関する情報（生きもの、環境イベント、取組み・活動など）は、どのような媒体による周知が理想的と考えますか。	12
Q 9	区民・企業・大学等と連携した生物多様性の取組みやイベントがあれば、参加してみたいと思いますか。	14
Q 9-1	参加しないと思う理由は何ですか。	15
Q 10	緑地を保全・維持・改善し続けていくことは重要だと思いますか。	16
Q 11	緑地の維持管理活動や生物多様性の保全活動に参加したことがありますか。	17
Q 11-1	参加した活動の活動名、活動場所をご記入ください。	18
Q 12	普段どのような身近な場所で生きものに関わる機会がありますか。	188
Q 13	以前より生物多様性への配慮が充実した・改善したと感じる場所がありますか。	200
Q 14	在来樹種を使った緑地が増えることが生物多様性の向上にとって重要だと思いますか。	211
Q 15	外来生物対策として、次のうちどの手段を最も取るべきだと思いますか。 ..	222
Q 16	生物多様性保全のために、普段の生活の中で取り組んでいる・心がけている活動をお答えください。	233
Q 17	自然環境や生きもののことを考えて行動していく際に、どのような情報が必要だと思いますか。	255
Q 18	今後、生物多様性の保全に向けて、千代田区がどのような取組みに力を入れていく必要があると思いますか。	277

※次ページより、設問ごとの回答状況、分析等記載しています。各設問でお寄せいただきました意見などの記述は、ほぼ原文のまま掲載させていただいているため、体裁は統一しておりません。また、回答比率は、小数点第一位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。ご了承ください。

Q1 あなたは、生物多様性という言葉をご存じですか。

項目	回答数	割合
言葉の意味を知っている	62	70%
意味は知らないが、聞いたことがある	12	14%
聞いたことがない	14	16%



<回答内容まとめ>

・「生物多様性の言葉の意味を知っている」と回答した割合は約70%であり、令和4年に内閣府が同様の設問で行った世論調査の結果（29.4%）より高い割合であった。

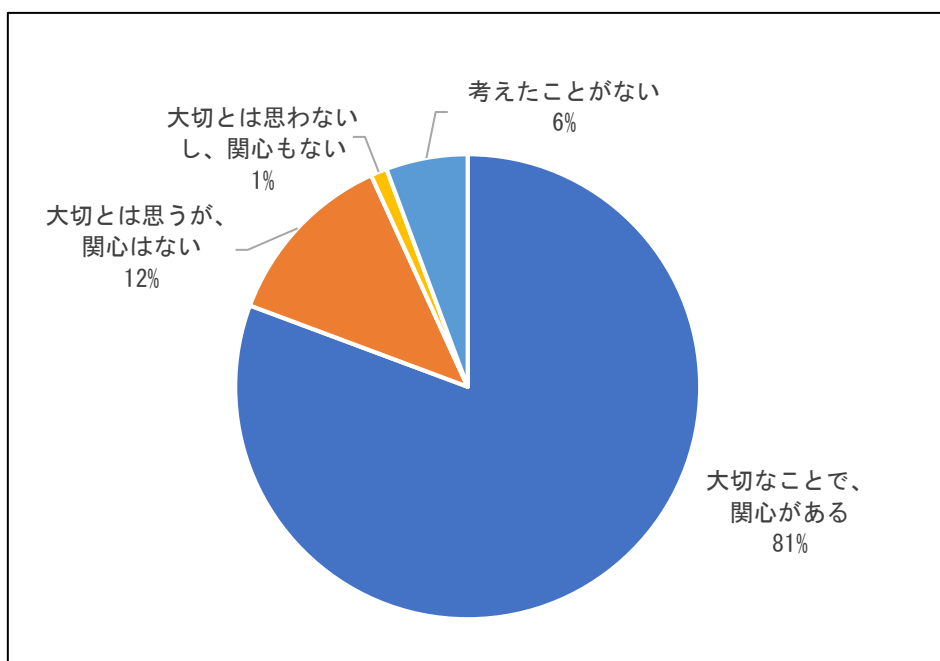
<改訂にあたって考慮する事項案（Q1・Q2）>

●「生物多様性」への関心が高く、参加意識も高いことから引き続き普及啓発を進める。また、より身近に感じられるよう社会環境と関連の深いSDGsや気候変動などとの関連を意識した取組みを進める。

⇒【行動計画9 ⑩生物多様性の普及啓発の実施】

Q2 あなたは、生物多様性に関心がありますか。

項目	回答数	割合
大切なことで、関心がある	71	81%
大切とは思いますが、関心はない	11	12%
大切とは思わないが、関心はある	0	0%
大切とは思わないし、関心もない	1	1%
考えたことがない	5	6%

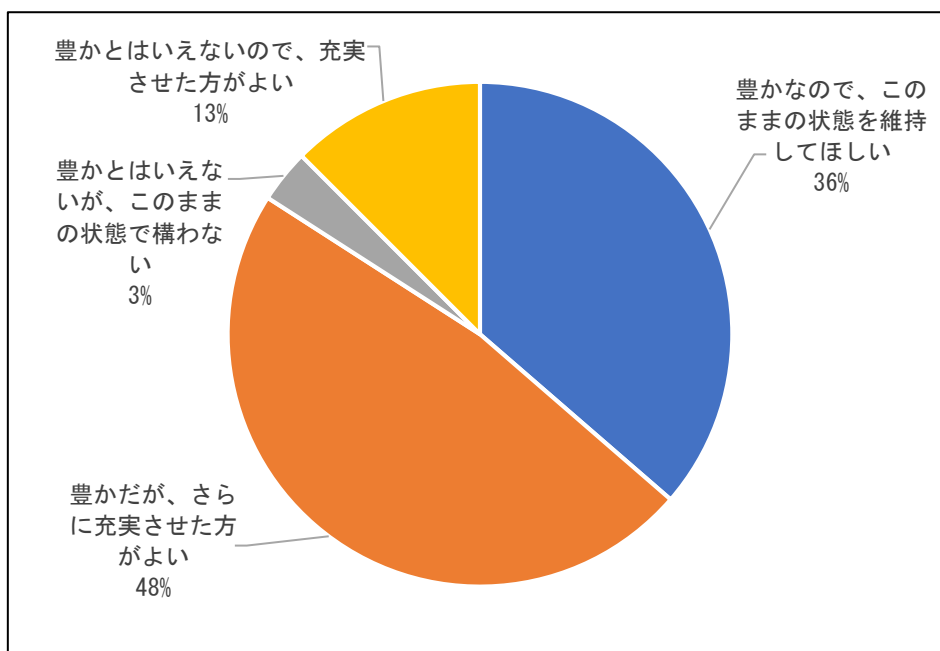


<回答内容まとめ>

・「生物多様性について、大切なことで関心がある」と回答した割合は約81%であり高い割合であった。

Q3 あなたは、区内の身近な自然についてどのように感じますか。

項目	回答数	割合
豊かなので、このままの状態を維持してほしい	32	36%
豊かだが、さらに充実させた方がよい	42	48%
豊かとはいえないが、このままの状態構わない	3	3%
豊かとはいえないので、充実させた方がよい	11	13%



<Q3 回答内容まとめ>

・区内の身近な自然について、「豊かなので、このままの状態を維持してほしい」（回答率約 36%）「豊かだが、さらに充実させた方がよい」（回答率約 48%）の合計の回答率は約 84%で高い割合であった。

<改訂にあたって考慮する事項案（Q3）>

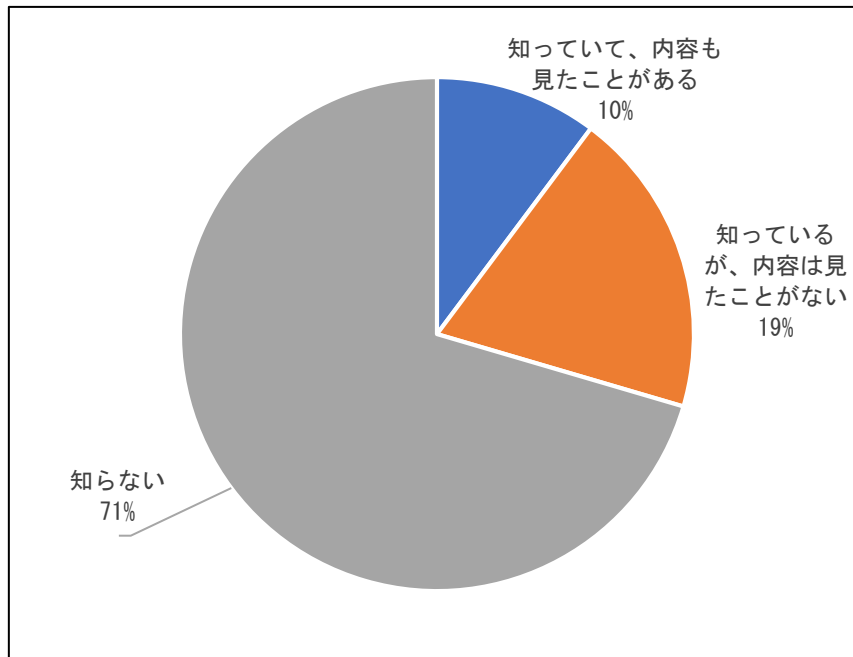
●「豊かだが、さらに充実させた方がよい」が最も高い回答率であり、これまでの区の実施や、事業者等への協力を一層推進していくことが必要である。

⇒【行動計画 1 ①緑地の指定】

⇒【行動計画 3 ⑤生きものに配慮した公園づくりや街路樹整備の推進】

Q4 あなたは、区の生物多様性地域戦略である「ちよだ生物多様性推進プラン」のことをご存じですか。

項目	回答数	割合
知っていて、内容も見たことがある	9	10%
知っているが、内容は見たことがない	17	19%
知らない	62	71%



<Q4 回答内容まとめ>

- ・「ちよだ生物多様性推進プラン」の認知度は、「知らない」の回答率が約 71%で高い割合であった。「知っていて、内容も見たことがある」の回答率は約 10%であった。

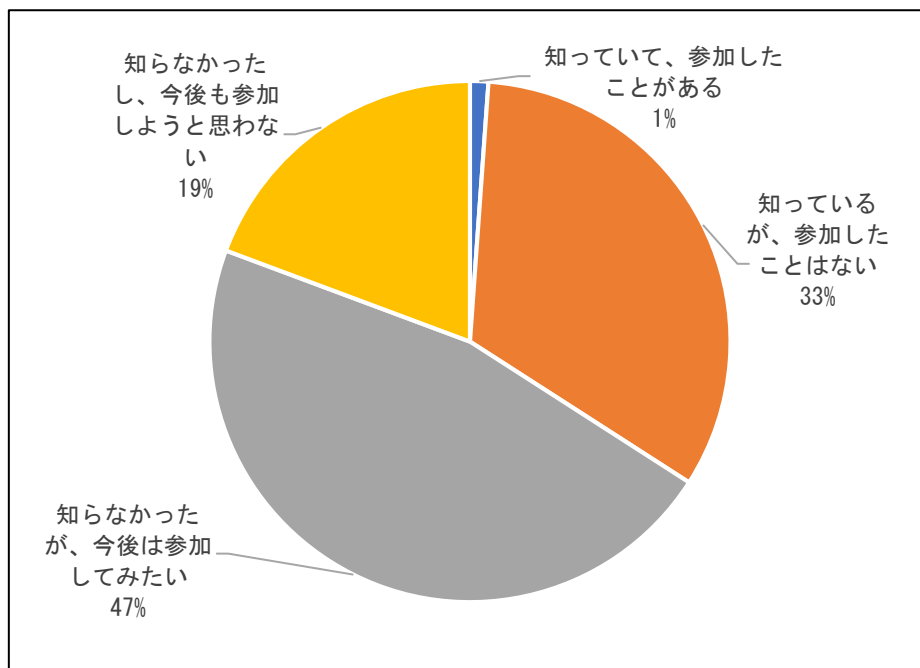
<改訂にあたって考慮する事項案 (Q4) >

●様々な取組みが「ちよだ生物多様性推進プラン」や関連計画、施策に基づくものであることが認識されていない。

⇒【行動計画9 ⑩生物多様性の普及啓発の実施】

Q5 あなたは「千代田区生きものさがし」をご存じですか。また、参加したことがありますか。

項目	回答数	割合
知っていて、参加したことがある	1	1%
知っているが、参加したことはない	29	33%
知らなかったが、今後は参加してみたい	41	47%
知らなかったし、今後も参加しようと思わない	17	19%



<Q5 回答内容まとめ>

・「千代田区生きものさがし」の認知度及び参加希望度では、「知らなかったが、今後は参加してみたい」の回答率が約47%と最も割合が高く、また「知らなかったし、今後も参加しようと思わない」の回答率が約19%で、「知らなかった」の回答率の合計が、約66%であった。

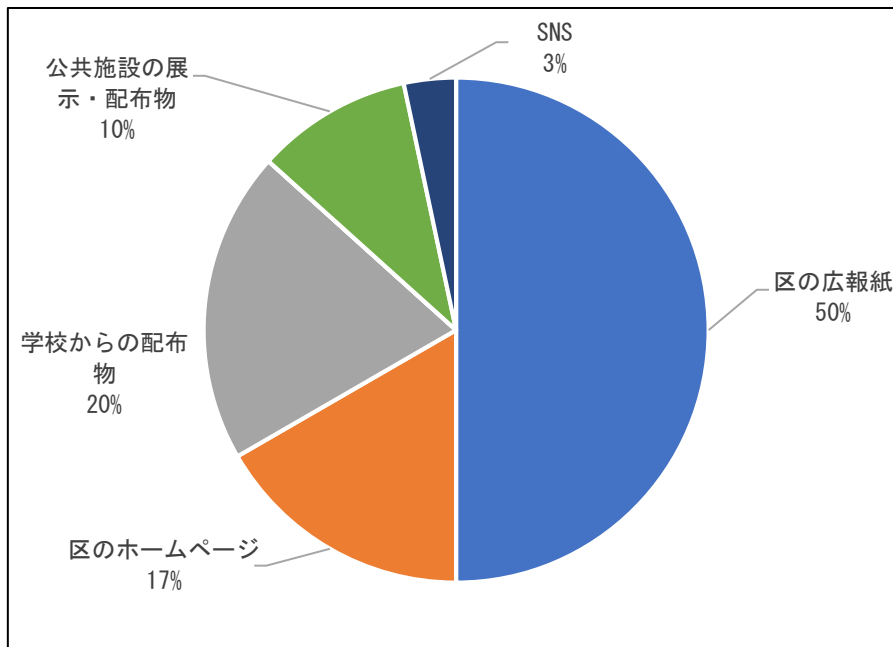
<改訂にあたって考慮する事項案 (Q5) >

●参加希望の割合は高いものの「知らなかった」の回答の割合が高く、「千代田区生きものさがし」の認知度が低い。ニーズを把握し、今後効果的な情報発信方法を検討していく必要がある。

⇒【行動計画 10 ⑳区民参加型モニタリング調査】

Q5-1 Q5で知っていて参加したことがある・知っているが参加したことはないと答えた方に伺います。あなたは、どこで「千代田区生きものさがし」の取組みを知りましたか。

項目	回答数	割合
区の広報紙	15	50%
区のホームページ	5	17%
学校からの配布物	6	20%
企業イベント	0	0%
企業ホームページ	0	0%
公共施設の展示・配布物	3	10%
SNS	1	3%



<Q5-1 回答内容まとめ>

・「千代田区生きものさがし」に「参加したことがある」「知っている」の回答者で、知ったきっかけで最も回答率が高いのは「区の広報紙」（約 50%）であった。次いで「学校からの配布物」（約 20%）であった。「企業イベント」や「企業ホームページ」はそれぞれ 0%であった。また「SNS」も約 3%と低かった。

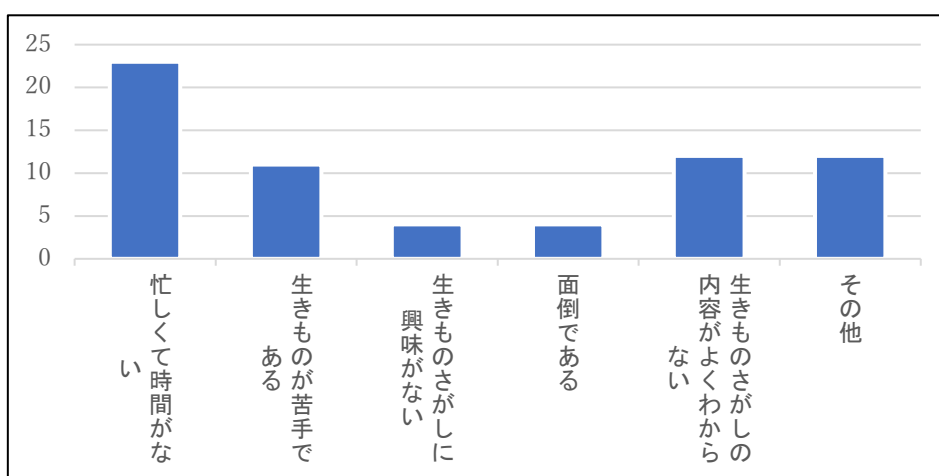
<改訂にあたって考慮する事項案（Q5-1）>

●知ったきっかけでは、紙媒体によるものが多く、今後も紙媒体での情報発信を継続していく必要がある。加えて調査結果についても紙媒体での配布も普及啓発の観点から望ましいと考えられる。企業と連携して取組みの周知や参加者を広げていくことが必要である。

⇒【行動計画 10 ㊟区民参加型モニタリング調査】

Q5-2 (Q5で知っているが参加したことはない・知らなかったし今後も参加しようと思わないと答えた方に伺います。) 参加したことがない・参加しない理由は何ですか。
(複数回答可)

項目	回答数
忙しくて時間がない	23
生きものが苦手である	11
生きものさがしに興味がない	4
面倒である	4
生きものさがしの内容がよくわからない	12
その他	12



その他の回答

- 知らなかった (2件)
- 参加したいと思っています
- アンケートの質問から推察するに、価値観が異なる
- どのように参加したらよいかわからない
- 関心はあるが、探す時間帯の日中は勤務中であるため。ただ応援はしたいです。
- 子供などを対象としたイベントと思うので。子供がいれば時間を作って参加すると思う。
- 子供の年齢が応募資格に満たなかった為

<Q5-2 回答内容まとめ>

・「忙しくて時間がない」が最も回答数が多い。また、「生きものさがしの内容がよくわからない」が次いで多い。

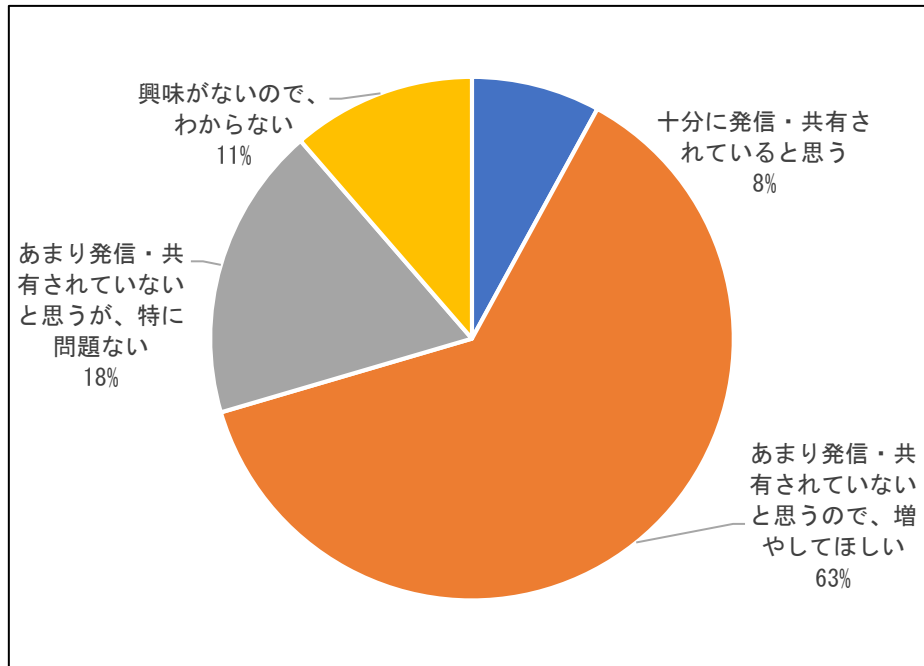
<改訂にあたって考慮する事項案 (Q5-2) >

●その他回答で子供がいれば時間を作って参加すると思う、の記述があることから、学校や子供が集まる児童館などからの広報が効果が高いと考えられる。

⇒【行動計画 10 ⑳区民参加型モニタリング調査】

Q6 あなたは、区内の生きものの生育・生息情報や各団体の取組活動等の情報が、十分に発信・共有されていると思いますか。

項目	回答数	割合
十分に発信・共有されていると思う	7	8%
あまり発信・共有されていないと思うので、増やしてほしい	55	63%
あまり発信・共有されていないと思うが、特に問題ない	16	18%
興味がないので、わからない	10	11%



<Q6 回答内容まとめ>

・区内生きものの情報、各団体の取組活動等の情報発信について、「あまり発信・共有されていないと思うので、増やしてほしい」の回答率が約63%と高かった。一方で「十分に発信・共有されていると思う」の回答率は約8%と最も低かった。

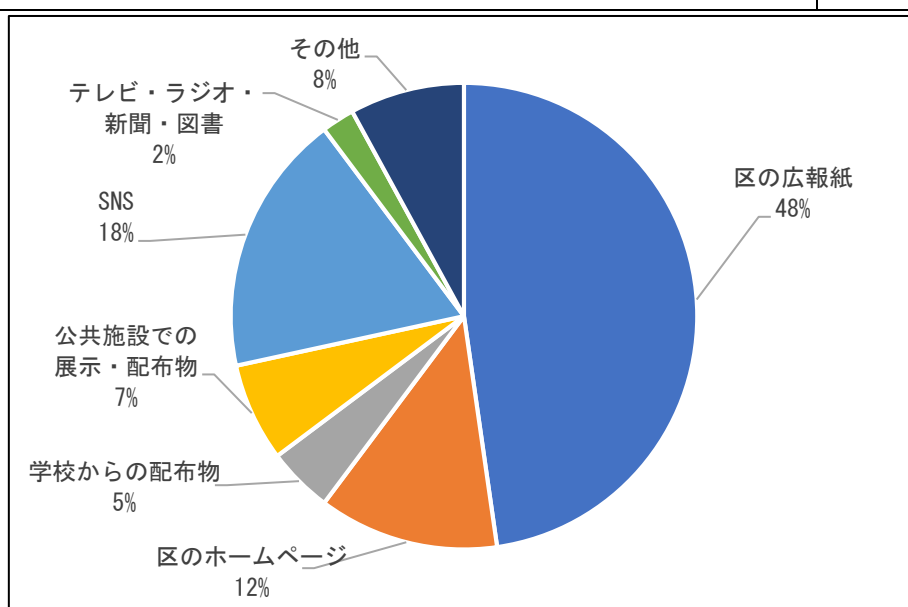
<改訂にあたって考慮する事項案 (Q6) >

●区内の生きもの情報を知りたいニーズは一定程度あるものの、情報が不足もしくは、ニーズにあった情報提供方法がとられていない可能性がある。公民館や学校のほか、事業者と連携して利用者の多い商業施設も活用した情報発信も効果的である。

⇒【行動計画 10 ⑱生きもの情報の収集・管理・活用】

Q7 あなたは、区内の生物多様性に関する情報（生きもの、環境イベント、取組み・活動など）は主に何で知りますか。

項目	回答数	割合
区の広報紙	42	48%
区のホームページ	11	12%
学校からの配布物	4	5%
企業や民間団体等のイベント	0	0%
企業や民間団体等のホームページ	0	0%
公共施設での展示・配布物	6	7%
SNS	16	18%
テレビ・ラジオ・新聞・図書	2	2%
その他	7	8%



その他の回答

- 千代田図書館の掲示版
- 今回のアンケートで初めて知った（3件）
- 今まで生物多様性に関する区の情報に触れたことがない。
- 知らなかった
- 身近に知るすべがない

<Q7 回答内容まとめ>

・生物多様性に関する情報を知るきっかけについて「区の広報紙」の回答率が約48%と最も高かった。

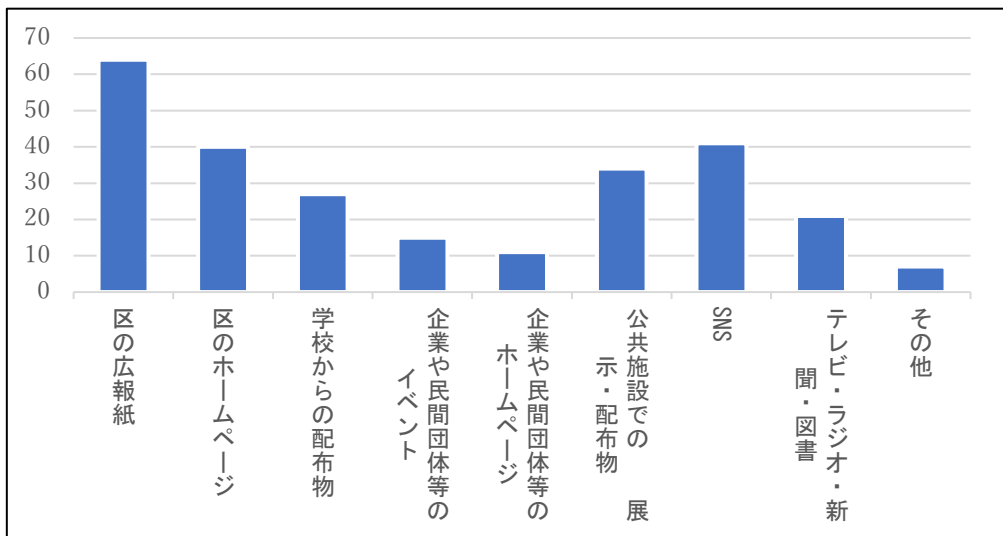
<改訂にあたって考慮する事項案（Q7）>

- 広報紙をはじめ、紙媒体での周知も継続して行っていく必要がある。

⇒【行動計画10 ⑱生きもの情報の収集・管理・活用】

Q8 あなたは、区内の生物多様性に関する情報（生きもの、環境イベント、取組み・活動など）は、どのような媒体による周知が理想的と考えますか。（複数回答可）

項目	回答数
区の広報紙	64
区のホームページ	40
学校からの配布物	27
企業や民間団体等のイベント	15
企業や民間団体等のホームページ	11
公共施設での展示・配布物	34
SNS	41
テレビ・ラジオ・新聞・図書	21
その他	7



その他の回答

- 区民により多く認識させたいのなら、本件に特化した印刷物の配布
- 周知する必要があるのか疑問
- 上記の全部
- YouTube などの動画
- 町会内での配り物
- マンション組合や地区町会の会合を通した広報活動、千代田区のボランティア活動等
- 子どもやお年寄りとは自発的にインターネット、SNS などを利用して区の情報を取ろうとは思わないので、生活していて目につく形がいいと思う。

<Q8 回答内容まとめ>

・生物多様性に関する情報の理想的な媒体について、「区の広報紙」の回答数が64と最も多かった。ついで、「SNS」、「公共施設での展示・配布物」であった。

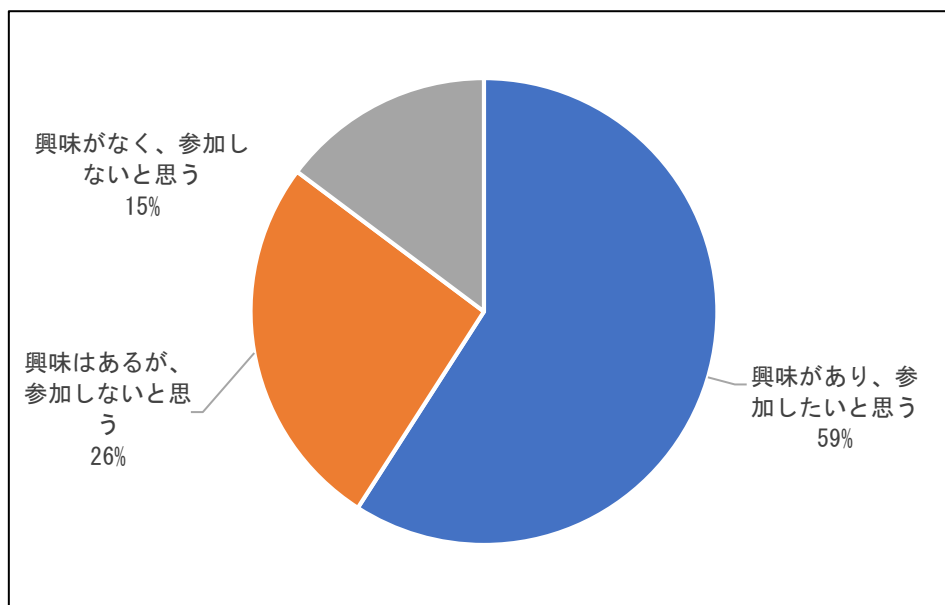
<改訂にあたって考慮する事項案（Q8）>

●生きものや取組活動への関心が高いものの、そのニーズにあった発信がなされていない。⑳の取組み（区民参加型モニタリング調査）に関連し、紙媒体での情報発信が効果的で、区内在住者にとっては一人ひとり、世帯ごとに直接的な広報を行っていくことがよい。また、誰もがアクセスできるプラットフォームの開設や公共施設等での情報提供のほか、事業者等と連携して情報発信をするなどの方策を講じることも効果的と考えられる。

⇒【行動計画10 ⑱生きもの情報の収集・管理・活用】

Q9 あなたは、区民・企業・大学等と連携した生物多様性の取組みやイベントがあれば、参加してみたいと思いますか。

項目	回答数	割合
興味があり、参加したいと思う	52	59%
興味はあるが、参加しないと思う	23	26%
興味がなく、参加しないと思う	13	15%



<Q9 全体の回答内容まとめ>

・生物多様性の取組みやイベントへの参加希望について、「興味があり、参加したいと思う」の回答率が約59%であった（設問Q9）。「参加しない」と答えた回答のうち、理由は「忙しくて時間がない」が最も回答が多かった。

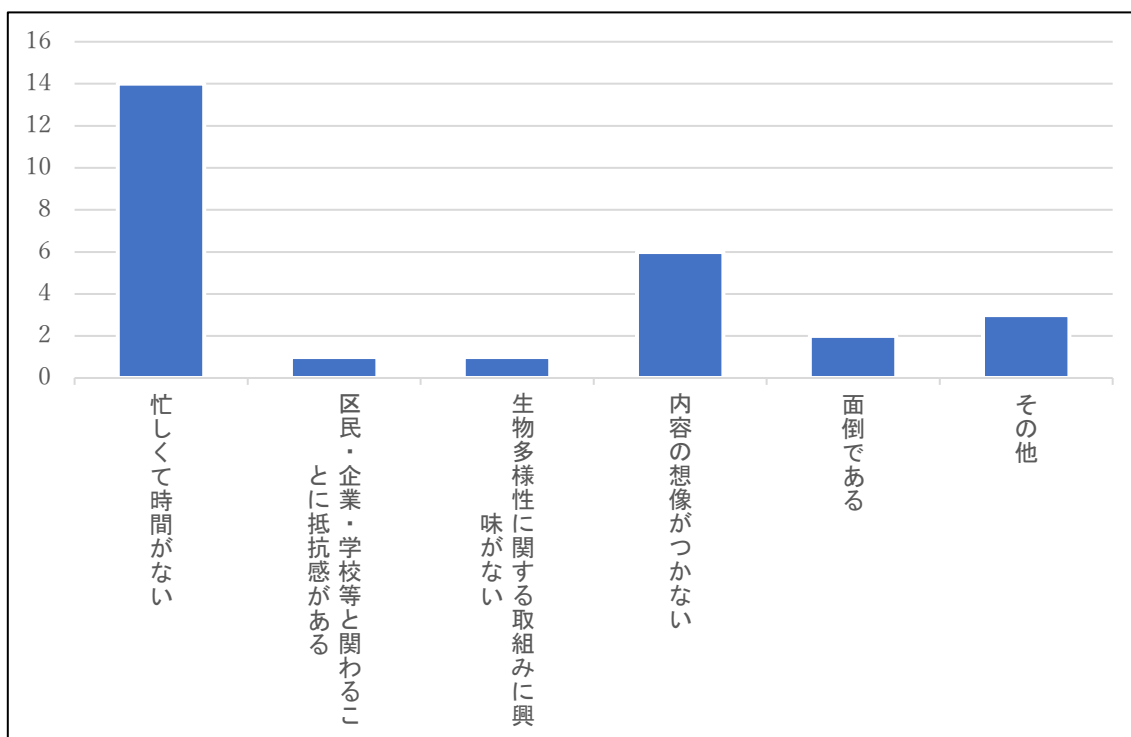
<改訂にあたって考慮する事項案（Q9）>

●参加の意識は高いものの、時間的制約がネックになっているとの回答が多い。「生物多様性」に関する取組みに対して、敷居が高い、一歩踏み出さないと参加が難しい、と捉えられている可能性が高い。取組みの「内容の想像がつかない」の回答も6件であった。「生物多様性」やその取組みを身近に感じられる、日常生活とのかかわりを感じられる普及啓発の手法が必要である。

⇒【行動計画9 ⑩生物多様性の普及啓発の実施】

Q9-1 Q9で興味はあるが参加しないと思うと答えた方に伺います。参加しないと思う理由は何ですか。(複数回答可)

項目	回答数
忙しくて時間がない	14
区民・企業・学校等と関わることに抵抗感がある	1
生物多様性に関する取組みに興味がない	1
内容の想像がつかない	6
面倒である	2
その他	3

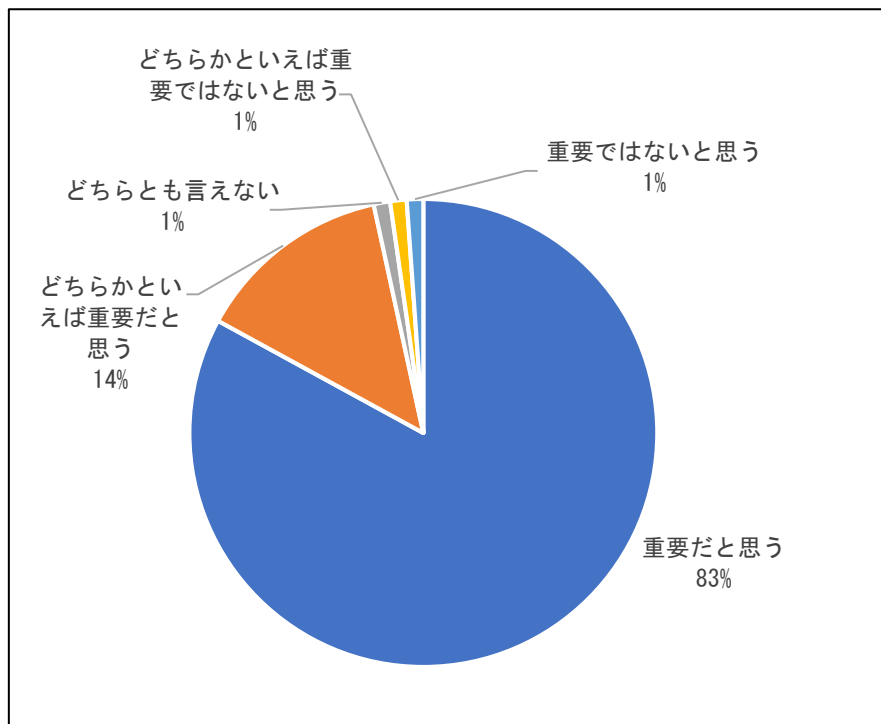


その他の回答

- 現在、外出・歩行が不自由な身体状況なので。
- 家族の介助が必要なので、集団行動が難しい
- 子どもが成長し、一緒に探す機会がない

Q10 あなたは、区が区内の緑地を保全・維持・改善し続けていくことは重要だと思いますか。

項目	回答数	割合
重要だと思う	73	83%
どちらかといえば重要だと思う	12	14%
どちらとも言えない	1	1%
どちらかといえば重要ではないと思う	1	1%
重要ではないと思う	1	1%



<Q10 回答内容まとめ>

・区内の緑地の保全・維持・改善の継続の必要性について、「重要だと思う」の回答率が約83%と最も高かった。

<改訂にあたって考慮する事項案 (Q10) >

●緑地の保全・維持・改善関心が高く、関連する取組みを引き続き推進・強化していくことが重要である。

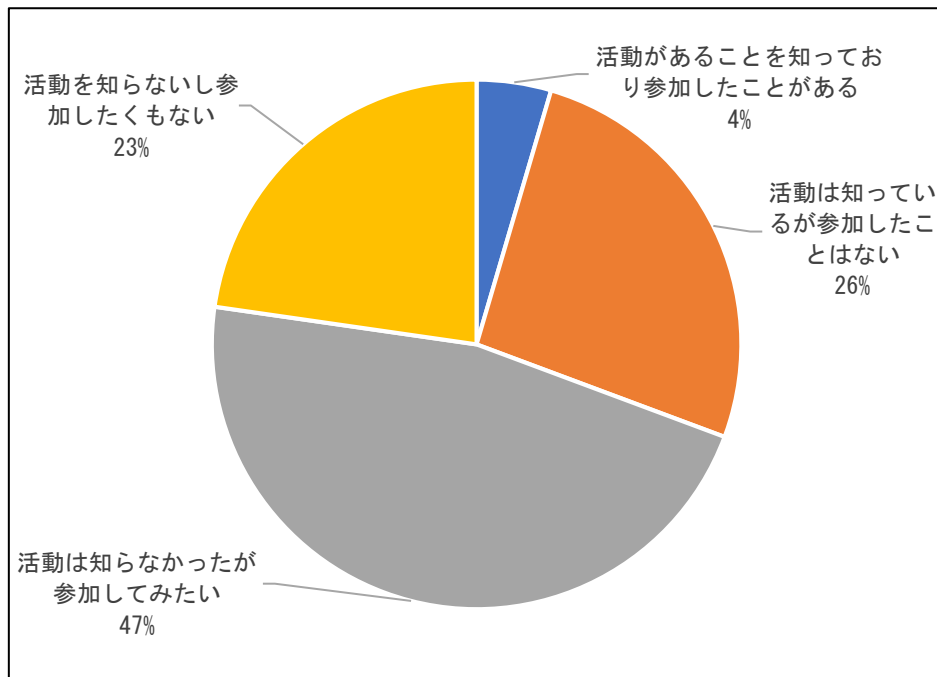
⇒【行動計画1 ⑯緑地の指定】

⇒【行動計画3 ⑤生きものに配慮した公園づくりや街路樹整備の推進、⑥ビオトープづくりなどの推進】

⇒【行動計画4 ⑩緑化助成制度の拡充】

Q11 あなたは、区内の緑地の維持管理活動や生物多様性の保全活動に参加したことがありますか。

項目	回答数	割合
活動があることを知っており参加したことがある	4	4%
活動は知っているが参加したことはない	23	26%
活動は知らなかったが参加してみたい	41	47%
活動を知らないし参加したくもない	20	23%



<Q11 回答内容まとめ>

・緑地の維持管理活動・生物多様性の保全活動への参加意識では、「活動は知らなかったが参加してみたい」の回答率が約47%で最も高かった。「活動があることを知っており参加したことがある」の回答率は約4%と最も低かった。

<改訂にあたって考慮する事項案 (Q11) >

●緑地の保全や維持に関心が高いものの、活動する場の情報提供が不十分であると考えられる。参加意欲にあった情報提供が必要である。

⇒【行動計画3 ④生物多様性表彰制度の創設】

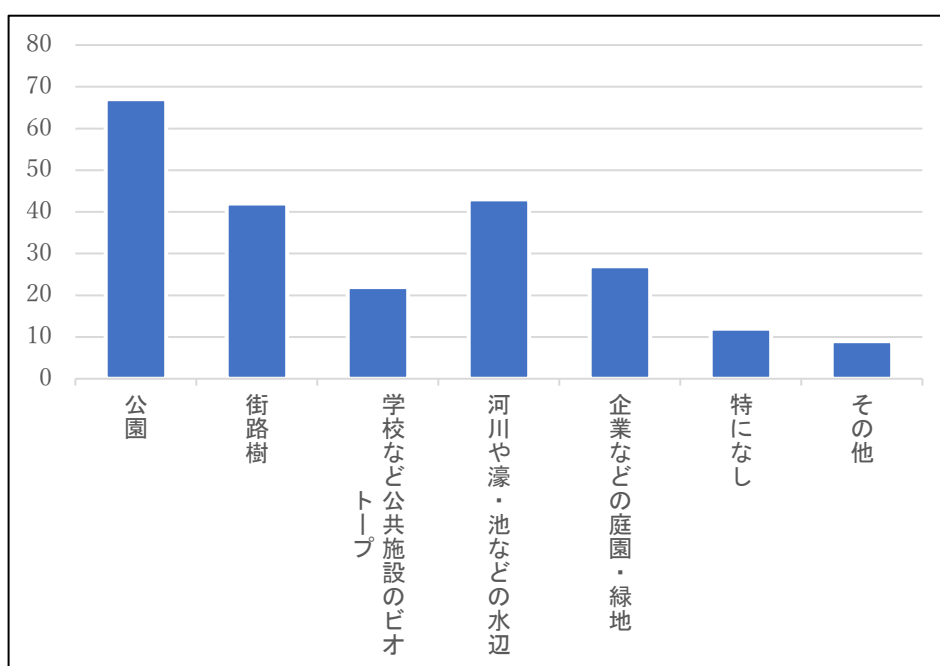
⇒【行動計画9 ⑯生物多様性普及啓発の実施】

Q11-1 Q11で参加したことがあると答えた方に対してご質問いたします。参加した活動の活動名、活動場所をご記入ください。

- ボーイスカウト千代田6団の活動で「緑の羽根募金」に毎年参加している。
また、コロナ前は日比谷公園で行う緑の感謝祭にも参加していた。
- 清水谷公園の植栽
- 花咲か爺さん
- なし

Q12 あなたは普段、どのような身近な場所で生きものに関わる機会がありますか。(複数回答可)

項目	回答数
公園	67
街路樹	42
学校など公共施設のビオトープ	22
河川や濠・池などの水辺	43
企業などの庭園・緑地	27
特になし	12
その他	9



その他の回答

- みちばた
- イベント
- 山岳地帯
- 散歩しているとドブネズミを見かけるようになった。
- ビルの屋上緑地
- 以前事務所が丸の内だった時、窓から大きなトンボが入ってきました。自然豊かな皇居からやっ
てきたんですかね？
- 登山でよく山にいきます
- 靖国神社
- 我が家では 25～26 匹の白めだか、熱帯魚を飼っています。

<Q12 回答内容まとめ>

・身近な場所での生きものに関わる場所について、「公園」が最も回答数が多く、次いで「河川や濠・池などの水辺」、「街路樹」であった。

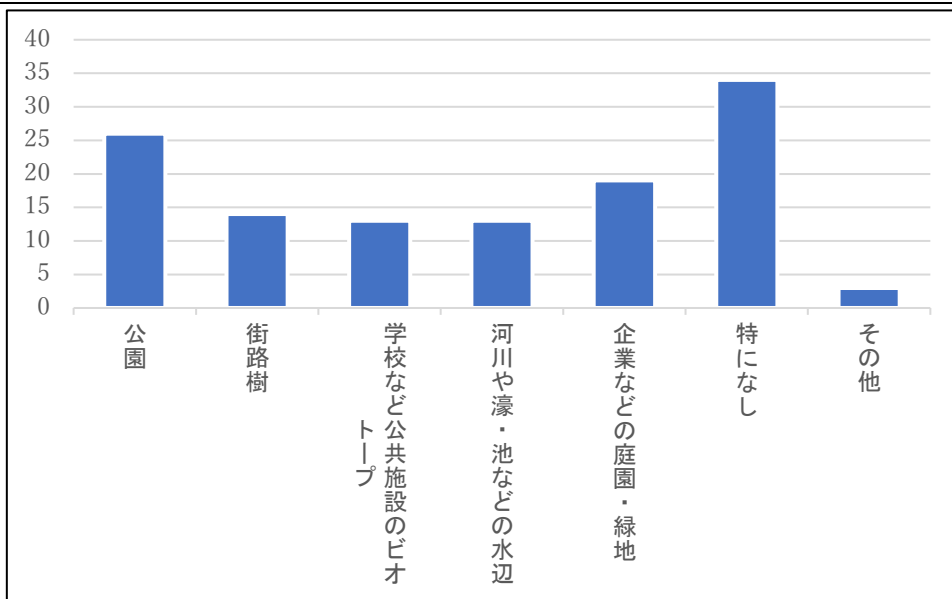
<改訂にあたって考慮する事項案 (Q12) >

●公園や河川等での自然ふれあいの場の提供、整備を継続して行っていく必要がある。

⇒【行動計画 5 ⑪生きものを観察できる場所の整備】

Q13 あなたは、区内で以前より生物多様性への配慮が充実した・改善したと感じる場所がありますか。(複数回答可)

項目	回答数
公園	26
街路樹	14
学校など公共施設のビオトープ	13
河川や濠・池などの水辺	13
企業などの庭園・緑地	19
特になし	34
その他	3



その他の回答

- 改善はされたのかもしれないが、住民（若い子供連れの世代）が増え、また千代田区への訪問者（ジョギング、飲食、観光など）が増え続けているので、残念ながら改善効果が見られない。
- 皇居
- ドブネズミが増えたのは生物多様性に配慮した結果ですか？

<Q13 回答内容まとめ>

・以前より生物多様性への配慮が充実した・改善した場所では、「特になし」の回答数が最も多かった。

<改訂にあたって考慮する事項案（Q13）>

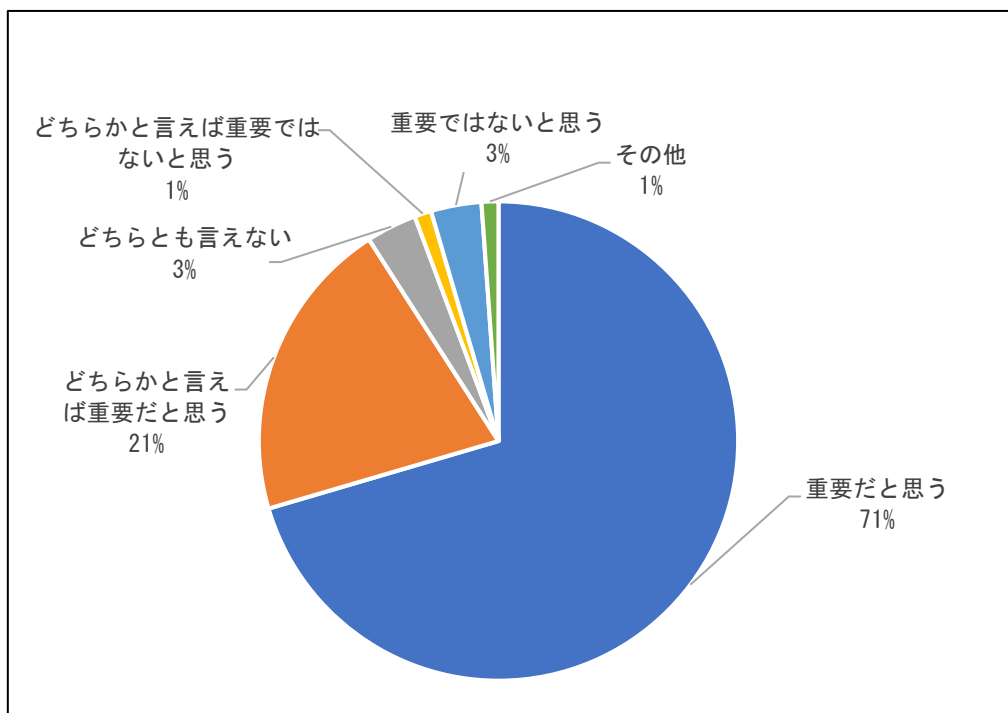
●取組みを行っているものの、効果や成果の説明・情報発信が不十分で、区民に理解されていない可能性があることから、他設問の回答にも関連して、紙媒体による効果的な情報発信が必要である。

⇒【行動計画3 ⑤生きものに配慮した公園づくりいや街路樹整備の推進】

⇒【行動計画5 ⑪生きものを観察できる場所の整備】

Q14 あなたは、区内に在来樹種を使った緑地が増えることが生物多様性の向上にとって重要だと思いますか。

項目	回答数	割合
重要だと思う	62	71%
どちらかと言えば重要だと思う	18	21%
どちらとも言えない	3	3%
どちらかと言えば重要ではないと思う	1	1%
重要ではないと思う	3	3%
その他	1	1%



その他の回答

- 生態系を守ることと生物多様性を向上させることは単純に「＝」ではないので慎重に対応することが求められる。

<Q14 回答内容まとめ>

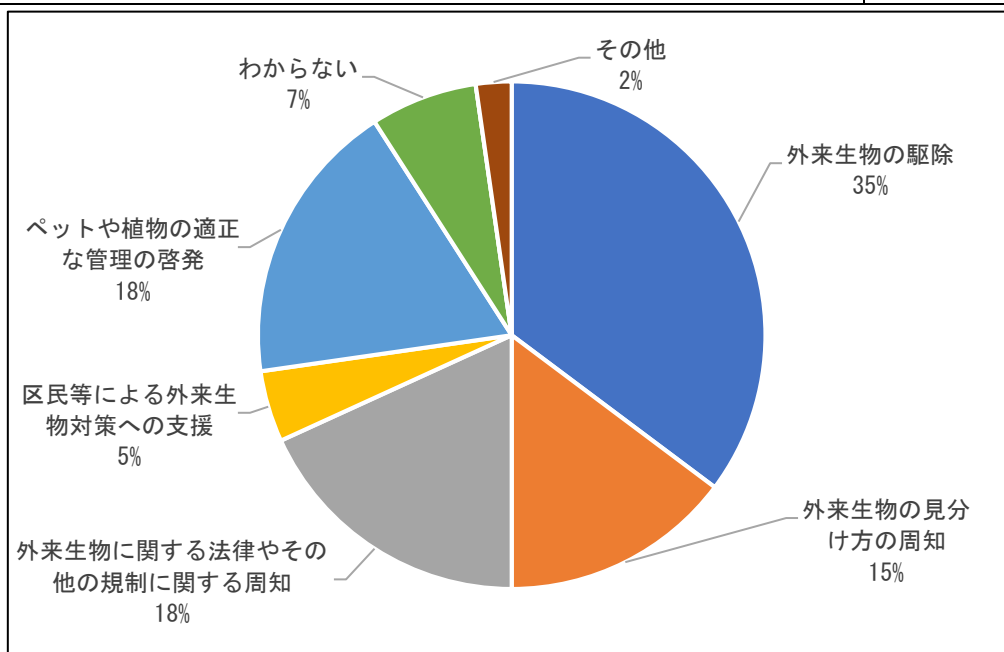
・在来樹種を使った緑地が増えることが生物多様性の向上にとって重要かについて、「重要だと思う」の回答率が約71%と最も高かった。

<改訂にあたって考慮する事項案 (Q14) >

- 引き続き、在来樹種の植栽を推進することが重要である。

Q15 あなたは、外来生物対策として、次のうちどの手段を最も取るべきだと思いますか。

項目	回答数	割合
外来生物の駆除	31	35%
外来生物の見分け方の周知	13	15%
外来生物に関する法律やその他の規制に関する周知	16	18%
区民等による外来生物対策への支援	4	5%
ペットや植物の適正な管理の啓発	16	18%
わからない	6	7%
特になし	0	0%
その他	2	2%



<Q15 回答内容まとめ>

・外来生物対策として最も重要な手段について、「外来生物の駆除」の回答率が約35%と最も高かった。次いで、「外来生物に関する法律やその他の規制に関する周知」、「ペットや植物の適正な管理の啓発」であった。

<改訂にあたって考慮する事項案 (Q15) >

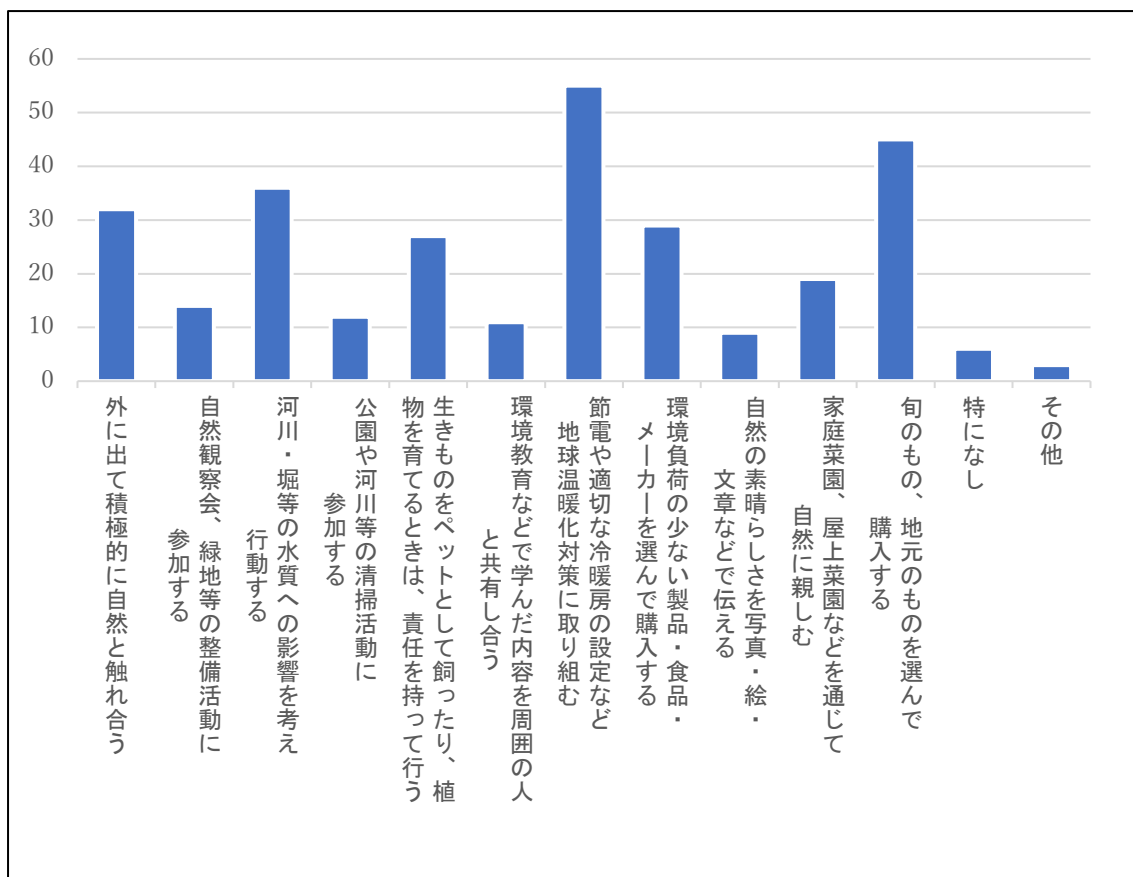
- 外来生物やその影響については各種媒体（テレビやWeb）などで、理解が進んでいるものと考えられるため、引き続き啓発活動も兼ねた市民参加型での駆除活動などを検討する。
- ペットや植物の適正な管理については、愛護団体や事業者等との連携を強化し、啓発と直接的な対策を進める（路上園芸、鉢花の遺棄なども）。

⇒【行動計画6 ⑬外来生物への対策や愛護動物の遺棄の禁止】

Q16 生物多様性保全のために、普段の生活の中で取り組んでいる・心がけている活動をお答えください。(複数回答可)

項目	回答数
身近な生きものの観察や、外に出て積極的に自然と触れ合う	32
自然観察会、緑地等の整備活動に参加する	14
洗濯や食器洗いの際、洗剤の使用量を減らすなどして、河川・堀等の水質への影響を考え行動する	36
公園や河川等の清掃活動に参加する	12
生きものをペットとして飼ったり、植物を育てるときは責任を持って行き、野外に放逐したり捨てたりしないようにする	27
環境教育などで学んだ内容を周囲の人と共有し合う	11
節電や適切な冷暖房の設定など地球温暖化対策に取り組む	55
エコマークやFSC認証などのついた製造・販売・廃棄過程で環境負荷の少ない製品・食品・メーカーを選んで購入する	29
自然の素晴らしさを写真・絵・文章などで伝える	9
家庭菜園、屋上菜園などを通じて自然に親しむ	19
旬のもの、地元のものを選んで購入する	45
特になし	6
その他	3

※太字は回答数の多い項目



その他の回答

- 虫が大好きなので困っている虫がいると逃がしてあげる
- 登山で出会った動物や植物を大切にすることを心がけている
- 食料品はロスがないように必要以上に買わないようにする 千代田区はいつでも必要な品が手に入るので普段から最低限の買い物をすればよい

<Q16 回答内容まとめ>

- ・生活環境に関わる、暮らしの中の延長戦としての取組み・心がけの回答が多い。
- ・「積極的に」「参加する」「認証を受けた商品を購入する」といった、一歩踏み出す取組み・心がけは回答が少ない。

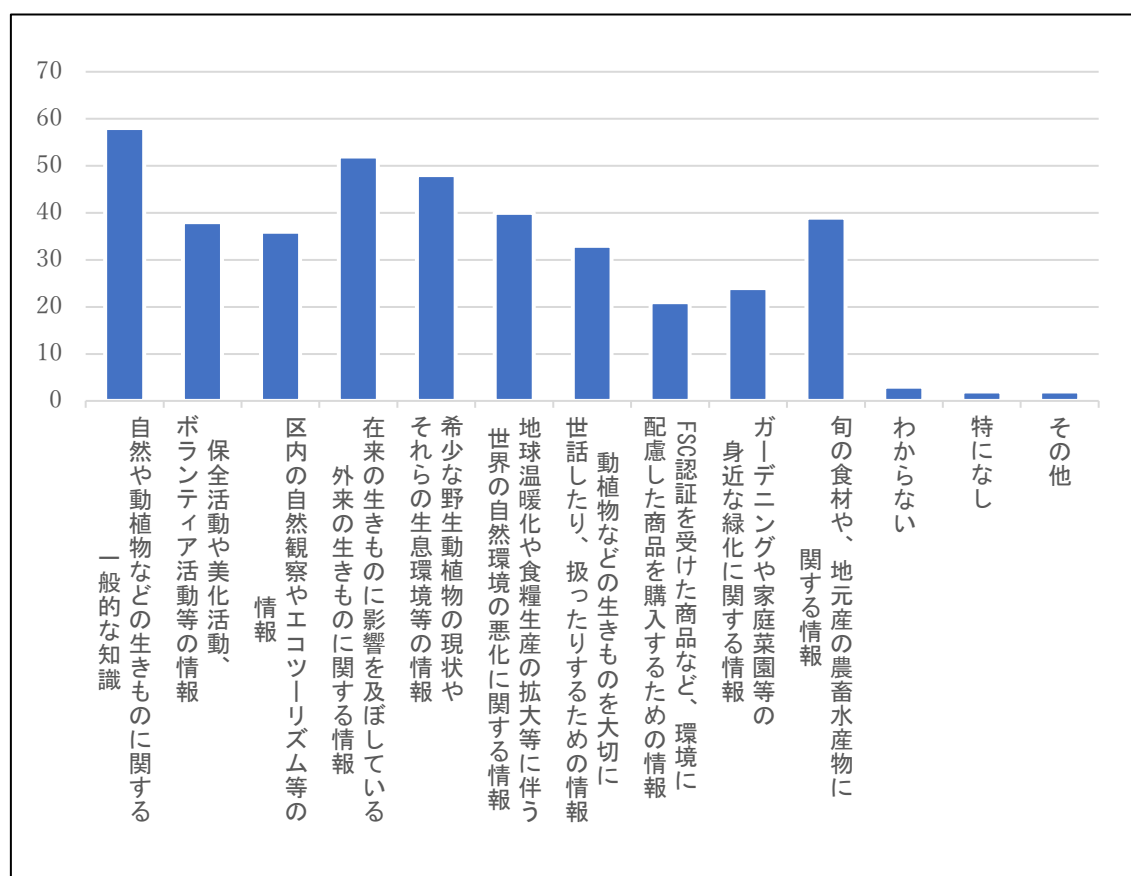
<改訂にあたって考慮する事項案 (Q16) >

- 普段の生活と生物多様性がどのように関わりがあるのかを第1章で示す。
- 生活環境の面からもアプローチし、生物多様性との関連の理解を促す。
⇒【行動計画9 ⑩生物多様性の普及啓発の実施】

Q17 あなたは、自然環境や生きもののことを考えて行動していく際に、どのような情報が必要だと思いますか。(複数回答可)

項目	回答数
自然や動植物などの生きものに関する一般的な知識	58
区内の自然環境の保全活動や美化活動、ボランティア活動等の情報	38
区内の自然観察やエコツアー等の情報	36
区内の在来の生きものに影響を及ぼしている外来の生きものに関する情報	52
絶滅のおそれのある区内の希少な野生動植物の現状やそれらの生息環境等の情報	48
地球温暖化や食糧生産の拡大等に伴う世界の自然環境の悪化に関する情報	40
動植物などの生きものを大切に世話したり、扱ったりするための情報	33
FSC 認証を受けた商品など、環境に配慮した商品を購入するための情報	21
ガーデニングや家庭菜園等の身近な緑化に関する情報	24
旬の食材や、地元産の農畜水産物に関する情報	39
わからない	3
特になし	2
その他	2

※太字は回答数の多い項目



その他の回答

- 大事なことなので、ボランティア活動に任せるのではなくきちんと対価を払う形で行ってほしい
- スポーツセンター地下にあるようなリサイクルショップをもう少し増やして、物の有効利用とごみの削減に取り組むのが良いと思う

<回答内容まとめ>

- ・ 外来生物を含めた区内の生きものの基礎的情報が必要と考える回答が多い。

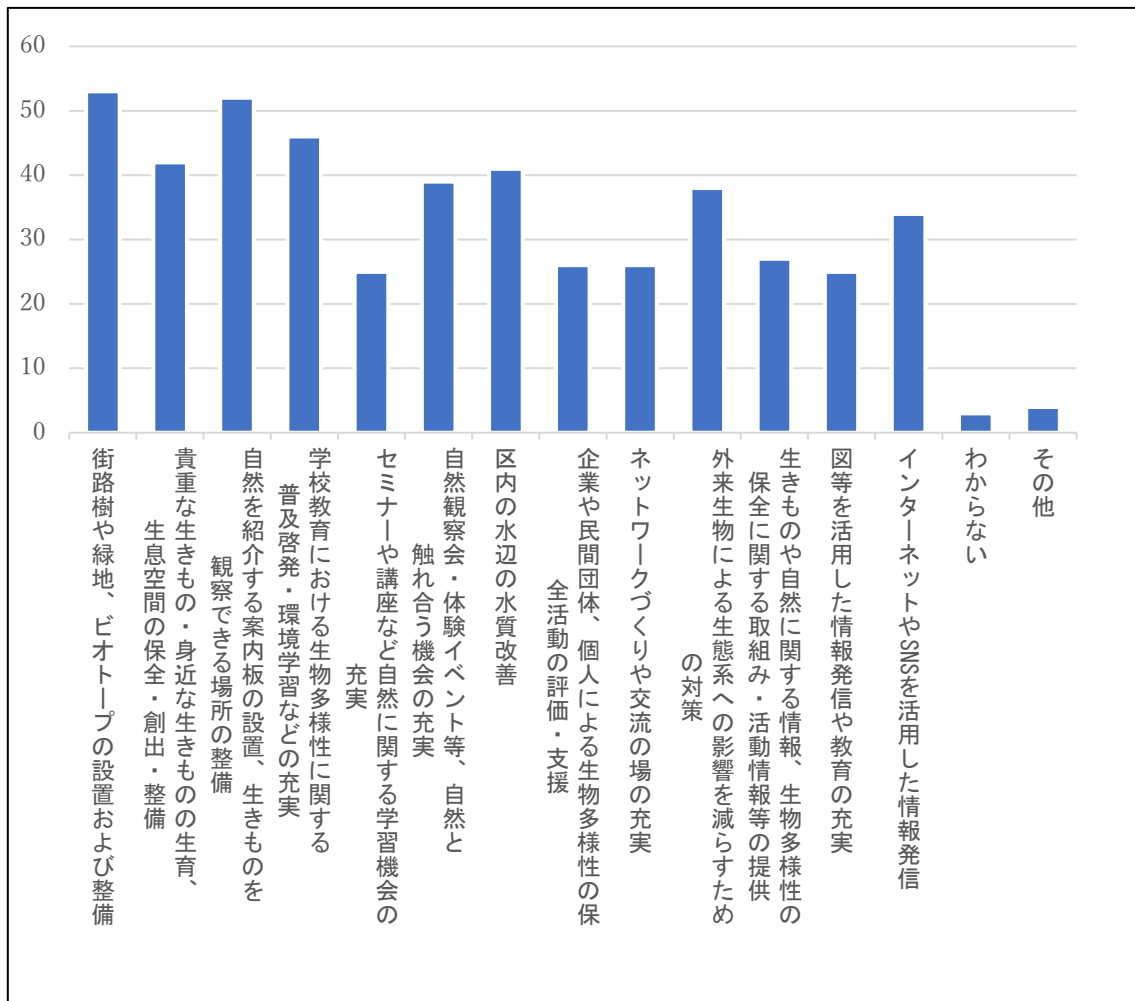
<改訂にあたって考慮する事項案

- 区内教育機関での生きものや生態系に関する学習の場を増やす。
- 生きもの情報のデータベース化し、積極的に情報提供、活用を促す。
- 引き続き「千代田区生きものさがし」への参加を呼びかける。
 - ⇒ 【行動計画 10 ⑱生きもの情報の収集・管理・活用】
 - ⇒ 【行動計画 10 ㉔区民参加型モニタリング調査】

Q18 あなたは、今後、生物多様性の保全に向けて、千代田区がどのような取組みに力を入れていく必要があると思いますか。(複数回答可)

項目	回答数
緑地や生物の生息地の繋がりを意識した街路樹や緑地、ビオトープの設置および整備	53
貴重な生きもの・身近な生きものの生育、生息空間の保全・創出・整備	42
区内の緑地・公園・河川等に身近な自然を紹介する案内板の設置、生きものを観察できる場所の整備	52
学校教育における生物多様性に関する普及啓発・環境学習などの充実	46
セミナーや講座など自然に関する学習機会の充実	25
自然観察会・体験イベント等、自然と触れ合う機会の充実	39
区内の水辺の水質改善	41
企業や民間団体、個人による生物多様性の保全活動の評価・支援	26
行政・教育機関・専門家・区民・活動団体・企業間のネットワークづくりや交流の場の充実	26
外来生物による生態系への影響を減らすための対策	38
生きものや自然に関する情報、生物多様性の保全に関する取組み・活動情報等の提供 (日程、場所、活動内容等)	27
区の自然環境・生態系ネットワークの特徴を把握できる、図等を活用した情報発信や教育の充実	25
インターネットやSNSを活用した情報発信	34
わからない	3
その他	4

※太字は回答数の多い項目



その他の回答

- 区民および訪問者に対する環境保全のためのルールとマナーの徹底。
- 不必要と思います
- 自然よりも、道路の整備や街路の手入れ、下水道や排水処理の改善など、街をきれいにする取り組みを優先してほしい。千代田区内でも汚い場所がいくつもある。
- 神田川がもう少し今の人工河川の様相から自然風味を持つようになって、緑、鳥や魚などが感じられるようになるといい

<Q18 回答内容まとめ>

- 生息・生育環境の場の整備や観察できる場の整備に関する要望や、学校での環境学習の充実など、基盤や仕組みの強化に関する要望の回答が多い。

<改訂にあたって考慮する事項案 (Q18) >

- 生息・生育環境の場の整備を引き続き進めていくとともに、場の活用方法の提供や市民参加型モニタリングの実施などを通して、自然ふれあいを促進する必要がある。
- 事業者や大学等と連携して、学校教育での環境学習のメニューの充実を図る必要がある。
- 回答の少ない事業者等による取組みやネットワークづくりも重要な取組みであるにもかかわらず認識が低いことから、強化する必要がある。